

# 行政視察報告書

令和 7 年 1 1 月

総務文教常任委員会

- 1 視察実施日 . . . . . P 1
- 2 参加者 . . . . . P 1
- 3 視察先及び調査事項 . . . . . P 1
- 4 視察先の概要 . . . . . P 1 ~ P 2
- 5 調査事項の概要及びまとめ . . . . . P 3
- 6 各委員報告書 . . . . . P 4 ~ P 9



## 1 視察実施日

令和7年11月13日(木)～令和7年11月14日(金)

## 2 参加者

委員長 藤尾 潔  
副委員長 大久保忠義  
委員 長谷川幹雄、松本美和子、橋本匡史、中村龍治  
随員 壺井初美（議会事務局長）

## 3 視察先及び調査事項

視察先 埼玉県三郷市、草加市  
調査事項 三郷市：日本一の読書のまち推進事業について  
草加市：いじめ防止及び不登校対策について

## 4 視察先の概要

### 【三郷市について】

三郷市は、埼玉県の東南端に位置し、都心から最近地点15km、最遠地点で24kmにある。地域の地形は低平にてほとんど高低なく、北から南に向かってわずかに低くなっている。

東京都に隣接する市南部では、高度経済成長期以降に宅地化が進み、市北部のJR武蔵野線沿線では、同じく高度経済成長期に計画された大規模団地などの区画された住宅地が多い。市中央部は住宅地のほか市街化区域もあり、首都圏新都市鉄道つくばエクスプレスの開通に伴い開発が進んでいる。また、それに伴い東部も急激に発展している。

古くは天領として早場米を江戸に供給する田園地帯だったが、現在では、その風情を残しながらも鉄道路線、高速道路3路線を有する良好な交通環境を備えるまでに発展し、東西を一級河川にはさまれた市域には河川敷・遊歩道・公園・田んぼなどの「水と緑」の環境が多い一方、新三郷駅前や三郷ジャンクション近郊にはショッピング施設が充実している。

### (1) 人口と世帯数（住民基本台帳人口 令和7年9月1日現在）

人口 141,925人（男：71,538人、女：70,387人）

世帯数 69,185世帯

### (2) 年齢別人口（令和7年1月1日現在）

		男	女	計	構成比
年少人口	0～14歳	8,748人	8,496人	17,244人	12.13%
生産年齢人口	15～64歳	45,390人	40,849人	86,239人	60.67%
老年人口	65歳以上	17,458人	21,211人	38,669人	27.20%
	計	71,596人	70,556人	142,152人	100.00%

(3) 面積 30.22 km<sup>2</sup>

※三郷市ホームページ等から抜粋



Map-It マップイット(c)

### 【草加市について】

草加市は、埼玉県の東南部に位置し、市域の南部が東京都足立区に接しており、東西7.24 km、南北7.6 km、中川、綾瀬川下流域にひらけた水と緑に恵まれた都市。施行時特例市に指定されている。

市域の大部分が自然堤防による微高地とその後背湿地からなる低地のため、集落は微高地に形成され、後背湿地は水田として利用されてきた。

昭和33年11月1日市制施行後は、大規模な住宅団地の造成、地下鉄の相互乗り入れなどを受けて人口は急増し、都市化が急激に進行している。

さらにその後の昭和・平成時代は、社会・経済情勢の変動を見据えながら東武鉄道の高架複々線化、東京外かく環状道路の建設、綾瀬川の改修、草加駅前や谷塚駅前の再開発など大規模プロジェクトによる取組が功を奏し、治水や都市基盤の整備が進んだ。

令和の時代を迎え、「いつまでもこのまちで暮らしたい、このまちで子どもを育てたい」と思われるような快適都市の実現を目指し、まちづくりを進めている。

(1) 人口と世帯数（住民基本台帳人口 令和7年9月1日現在）

人口 252,357人（男：127,068人、女：125,289人）

世帯数 128,328世帯

(2) 年齢別人口（令和7年1月1日現在）

		男	女	計	構成比
年少人口	0～14歳	13,892人	12,966人	26,858人	10.66%
生産年齢人口	15～64歳	85,663人	77,928人	163,591人	64.92%
老年人口	65歳以上	27,327人	34,216人	61,543人	24.42%
計		126,882人	125,110人	251,992人	100.00%

(3) 面積 27.46 km<sup>2</sup>

※草加市ホームページ等から抜粋

## 5 調査事項の概要及びまとめ

### (1) 日本一の読書のまち推進事業について

三郷市では、「日本一の読書のまち」を宣言し、読書のまち推進計画では、地域・機会・人の3つをキーワードに、独自の読書密度を指標に掲げており、これは読書に親しむ人の裾野を拡大していくことによって上昇する設計となっている。

今回、加東市で読書条例を制定するにあたって課題と考えている部分でもある。

三郷市ではふれあい文庫の設置などにより、図書館を積極的に利用する人だけでなく、多くの人に読書に親しむきっかけを提供しており、読書感想文のリレーには感銘をうけた。

子ども司書の取り組みをはじめとする読書イベントを中心に、さまざまなイベントを展開し、ブックサポーターのように人から人へ本の魅力が伝えられる伝道師を育てる仕組みに感銘を受けた。

組織面でも、生涯学習部—日本一の読書のまち推進課、その下に図書館があり、図書館事業の枠を超えて市民に読書に親しんでもらおうという姿勢を感じる事ができた。

仮に条例が制定できれば、これらの具体的施策が推進されるよう、取り組んでいきたい。

### (2) いじめ防止及び不登校対策について

草加市では各校でいじめ防止基本指針を策定するなど取り組みを進めている。

いじめ防止サミットの取り組みでは、子どもたちが主体的に考えられるようワークショップの設計などでも改善を重ねつつ工夫されている点が印象に残った。

悩みごとの相談体制では、草加っ子元気カードの導入など、即応性を重視されているように感じた。また、報告アプリのSTANDBYは予算的にも無理がない範囲で有効な手法であると感じた。相談したいときに相談できる点が有効であると考えられるし、また匿名であることにより人間関係が複雑な中での入り口としては効果的であると考ええる。加東市でもアプリの導入等相談体制の充実を図るべきである。

また、不登校支援についてもスクールソーシャルワーカーの配置やステップルームの配置など、居場所づくりに尽力されている姿勢がうかがえた。県と連携したメタバースの活用など、最新の取り組みも行われており、加東市での取り組みについてもさらに調査・研究を進めていきたい。

## 6 各委員報告書

### 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会

委員長 藤 尾 潔

#### 【日本一の読書のまち推進事業について】

読書のまちのトップランナーとしての気概を感じた。

組織面でも、生涯学習部―読書のまち推進課、その下に図書館があり、図書館事業の枠を超えて市民に読書に親しんでもらおうという姿勢を感じる事ができた。

読書のまち推進計画では、独自の読書密度を指標に掲げており、これは読書に親しむ人の裾野を拡大していくことによって上昇する設計となっている。

今回加東市で読書条例を制定するにあたって課題と考えている部分でもある。

三郷市では『ふれあい文庫』の設置などにより、図書館を積極的に利用する人だけでなく、多くの人に読書に親しむきっかけを提供しており、読書感想文のラリーには感銘を受けた。

『子ども司書』の取組なども参考になった。仮に条例が制定できれば、これらの具体的施策が推進されるよう、取り組んでいきたい。

#### 【いじめ防止及び不登校対策について】

草加市では各校でいじめ防止基本指針を策定するなど取り組みを進めている。

いじめの防止については重要な課題であり、加東市でも注意を払い同様の対応を行っていると思う。QUテストでは加東市の方がハイパー版を導入しているくらいである。ただ、草加市でのいじめ防止サミットの取組では、子どもたちが主体的に考えられるようワークショップの設計などでも改善を重ねつつ工夫されている点が印象に残った。

また、報告アプリのSTANDBYは予算的にも無理がない範囲で有効な手法であると感じた。加東市では学期に一度書面で困りごと調査を行っていると思うが、アプリだと相談したいときに相談できる点が有効であると考えられるし、また匿名であることにより人間関係が複雑な中での入り口としては効果的であると考ええる。加東市でも是非導入を検討してほしい。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会

副委員長 大久保忠義

### 【日本一の読書のまち推進事業について】

いつでも本を手にとることができる「ふれあい文庫」、「子ども司書」の養成講座と活躍、さまざまな「読書イベント」を取り組みの中心として、読み聞かせや活動をする為にブックサポーターなどのボランティアの力を使って、人から人へと本の魅力が伝えられる伝道師がたくさん育つような取り組みでした。

しかしながら、小さい時は本が大好きでも大きく大人になっていくほどに本離れが進んだり、日常的に本を読む人と読まない人の二極化の課題は三郷市でも同じである事もわかりました。

具体的な目標値がないが、読書密度の管理により事業や基本方針の進捗度の指針にされているのも参考になりました。

ふれあいブックワゴンとして、子ども達に1号車、高齢者に2号車を走らせて、巡回貸出や出張サービスが行われており、このラッピングカーが走る事が、また取り組みの日常的なPRにもなっているのだと感じました。

### 【いじめ防止及び不登校対策について】

児童生徒たちが主体となって取り組んできた「いじめ撲滅のための実践」を中学校区ごとに毎年発表する「いじめ撲滅サミット」では、進行から討論まで児童生徒たちで行っていることに驚きました。やらされるのではなく、当事者意識が芽生えるのに良い方法だと感じました。

学校アセスメント検査では、どこに不満や不安を抱えているのかの抽出が行われたり、「草加っ子」元気カードでは、悩んだ時にすぐに相談できるフリーダイヤルを設置して、生徒児童や保護者からの悩み相談窓口が市内にあるのも良いと感じました。

不登校については、不登校を生まない支援として、スクールソーシャルワーカーの派遣やオンライン支援「ステップルーム」の設置と校内の居場所づくりに力を注がれていました。事業費の大半は人件費になりますが、多様な原因を持ち、多様な対応が必要で、さまざまな機関と連携を図る必要があるのだと感じました。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 長 谷 川 幹 雄

### 【日本一の読書のまち推進事業について】

日本一の読書のまち三郷市と言われるだけあって、コンパクトな市に有名な企業も多く、税収も多いと思うし、推進事業にバックアップをしているのが素晴らしいと思います。

三郷市総合計画にも盛り込まれ、推進計画も素晴らしく、どこでも本と出合える環境「地域」、いつでもそこに本がある人生「機会」、誰でも本を通じてつながる「人」の基本方針で全市をあげて日本一を維持していることに感心した。

また、子ども司書の取組も凄く毎年自ら進んで夏休みの時期に集中して行って認定証を頂き、子ども司書読み聞かせ講座を経て、読み聞かせ実習を行い、各種イベントでも頑張っている。しっかり後継者を育て、持続可能な取組にしているところが日本一の図書のみち三郷市を持続していることができるのだろう。

加東市もこのような持続可能な取組を進める条例を推進していきたい。

### 【いじめ防止及び不登校対策について】

草加市のいじめ防止対策及び不登校対策について視察しましたが、本当に素晴らしい取組だと感心しました。

いじめ撲滅サミットを毎年開催し、午後からのパネルディスカッションは子ども達だけで進める画期的な進め方でいじめ撲滅に向けたさらなる活動につなげているのが素晴らしい。いじめ撲滅月間には埼玉県と連携して進めているなど小中連携の取組や啓発活動の資料配布、意識啓発など活動がしっかりしている。「草加っ子」元気カードなどの相談窓口の周知徹底ができていて、匿名相談アプリ「S T A N D B Y」の導入などいじめ対策撲滅推進事業予算が418万9千円でアプリ業務委託料が1人200円、5800人分(中1～3まで)で進めているがその対応も素晴らしく、返信も素早く対応しているようで、感心しきりでした。

今後、是非加東市にも取入れて推進すべき内容だと思った。

### 【そ の 他】

短い時間での視察でしたが、どちらも意義のあるもので、是非とも加東市も取組んで頂きたい内容でした。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 松本美和子

### 【日本一の読書のまち推進事業について】

読み聞かせ団体14団体(103名)。小学校や図書館で読書ボランティア全体は37団体(450名)ふれあい文庫は貸出手続き不要で市役所のロビーなどに手軽に本を読めるように置いてあり、それらは、市民からの寄付によるもの。

ふれあい文庫は市内32か所となり、市民が本にふれあえる機会を増やし、日本一「本とふれあえるまち」を掲げている。学校図書館司書は週2回外部委託し会計年度司書週4回勤務の方と先生で本をそろえている。

図書館費の主なものとして、人件費1億9400万円、施設管理費約7700万円、運営費1600万円、図書購入費約1500万円、ブックスタート・ランドセルブックよもよも併せて約290万円。読書イベントや子ども司書養成講座も開催し熱心に取り組んでいくことで、ボランティア活動される方も増え、市全体で読書を広めていく取組が着々と進んでいることがよくわかり大変参考になりました。

### 【いじめ防止及び不登校対策について】

草加市では、「いじめ撲滅サミット」を「いじめ撲滅強調月間」の11月に開催されている。そこでは、各中学校のいじめ撲滅のための取組を発表したり、弁護士、メンタルトレーナー、臨床心理士の方による講演、ゲストと中学生とのパネルディスカッションなどを行い、生徒とともに、教職員や保護者、地域の方々といじめに関する関心を高め、防止していこうとする態度や意識を高めている。11の中学校と21の小学校が一緒になって開催しているのも素晴らしい。

また、相談窓口も多く、臨床心理士と相談できるのもよい取り組みだと感じた。中でも、匿名相談アプリ「STANDBY」が導入され、生徒がいつでも気軽に相談でき、悩みの相談にはすぐに返事を返しておられるところも、素晴らしいと思いました。生徒の気持ちを察して返事をし、また相談が来れば、すぐに返信する。なかなか容易なことではないが、きちんと相談に対応してもらえることで、安心につながるのではないかと、また、匿名で相談できるところも、中学生の立場に立った対応であると感じた。中学生の多感な時期には、親や先生には相談しにくいことも多いと思うが、匿名で誰にも知られずに、困っていることや、いじめの相談ができることは、学校生活の安心につながるのでは。人間関係のトラブル等で悩みを抱えていると、勉強に集中できず、進路にも影響することも考えられるので、このような匿名アプリで、生徒の安心、安全につながる取り組みはぜひ広がってほしいと心から思いました。実際に相談対応されておられる方には苦勞が多いと思いますが、一人一人の人権が大切にされていると実感できれば、いじめはなくなると思うので、相談を受ける方も増員するなどし、継続してもらえたらよいなあと思いました。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 橋本 匡史

### 【日本一の読書のまち推進事業について】

<目的> 読書を推進する条例を提案するために日本一の読書のまち視察

三郷市は、読書をとおして人と人との絆を結び、誰もがいつでも読書に親しみ、心豊かに暮らすことのできる、文化のかおり高いまちを将来像に掲げ「日本一の読書のまち宣言」を宣言し、地域「どこでも本と出合える環境」、機会「いつでもそこに本がある人生」、人「誰でも本を通じてつながる」の3つのキーワードに取組の基本方針にあり、図書館以外にもスタバなどの店舗などの民間企業との連携や、読書ボランティアの活動の連携や養成と活動支援がされており読書活動の推進や図書館の利用促進に大きくなっていると思える。

それ以外にも「小中学校における読書活動の推進」、「読書ウイーク・読書フェスティバル」、「学校図書館の充実」、「子どもの読書活動優秀実践校」や本の楽しさを家族に伝える「家読『うちどく』（家庭での読書活動）」を推進されており学校、家庭、地域が連携して読書に親しむ環境づくりへの取組は非常に参考になった。

三郷市の「日本一の読書まち三郷」を目指して市民と行政が一体となり読書のまちづくりをめざしている取組を丁寧にお話しいただき大変参考になりました。読書を推進する条例提案に向けて、目指す将来像を明確に策定していきたいと思えます。

### 【いじめ防止及び不登校対策について】

<目的> いじめ対策の取組内容を情報収集

草加市では、いじめ撲滅強調月間を11月に「いじめ撲滅強調月間」と定め啓発活動を強化しています。

いじめ根絶に向けた決意を目的に児童生徒が主体となって「いじめ撲滅サミット」を定期的で開催しており児童生徒の意識向上を図っている。

いじめに関する匿名での報告や相談ができる相談アプリ「STANDBY」の導入後は相談しやすい環境が整ったことで相談件数が増えているそうです。

各取組について非常に詳しく説明をいただき勉強になりました。

加東市の教育委員会でも参考になる資料の「指導の基」をいただき草加市の教育委員会の取組がより詳しく知ることが出来ました。

草加市の実践的な取組は参考になりました。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 中 村 龍 治

### 【日本一の読書のまち推進事業について】

三郷市の日本一の読書のまち推進事業については予算を含め取り組む項目の多さに驚いた。まず、4か月検診でのプレゼント本や、ふれあいブックワゴン、講座やイベントの開催、そしてなにより読書ボランティアの取組実態を見ると読書のまち推進課と地域の方々が一つになっていて日本一を自負出来る事業団体であると思う。

市民の読書に対する意識を上げていくことが重要な課題であると感じた。

### 【いじめ防止及び不登校対策について】

草加市のいじめ防止対策、不登校対策については教育委員会の取り組む姿勢が素晴らしいと思う。いじめ撲滅サミットの開催、窓口相談番号案内の「元気カードのマグネットシール」。それとやはり相談アプリの「STANDBY」これについては学校学年が紐付けられていて職員の方が自ら相談を受けて即答していると言われたが早期対応は最大の課題であると考えます。

職員の方々が個々に心より子ども達の為に取り組んでおられる姿勢を感じた。